

視覚障害児者にも理解しやすいオノマトペの語釈の検討： 笑う動作を表すオノマトペを題材として

渡邊 まどか*, 鈴木 莉子*, 渡辺 千夏*, 永井 伸幸**

A Study for Interpretation of Onomatopoeia for Persons and Children with Visual Impairment
in Regard to Onomatopoeia for Laughing

Madoka WATANABE, Riko SUZUKI, Chinatsu WATANABE and Nobuyuki NAGAI

要旨：視覚的な情報に関するオノマトペは視覚障害児者にとって理解しづらい。そこで、視覚障害児者にも分かりやすいオノマトペの語釈を作成することを目的とした。笑う動作を表すオノマトペのうち、「にっこり」、「にかっ」、「にやっ」を対象とし、大学生30名を対象に各オノマトペの印象について質問紙調査を行った。得られた記述を分類した結果に基づき、動作・表情も伝わるように語釈を作成した。

キーワード：視覚障害児者、オノマトペ、語釈、笑う動作

I. はじめに

オノマトペとは、音や運動、感情などの情報を表現する言葉であり、感覚と強く関連する語である(矢口, 2012)。また、「乳幼児の必要欠くべからざるコミュニケーション手段であったり、日常会話の実感あふれるスパイスになったり、或いは文芸作品を成立させる表現技術として駆使されたりと、私たちの生活の基本から応用まで幅広く活用される言語表現」(有働, 2002)であり、上手に使用すれば、より生き生きとした滑らかな日本語になり、作文でも細やかな描写ができ、臨場感あふれる文章になる(彭, 2007)。そのため、オノマトペの語義や用法を理解し、使いこなすことで、より豊かな言語生活を実現することができると考えられる。

しかし、視覚的な動作を表すオノマトペについては、その動作の実際を確認できない視覚障害児者にとっては理解が困難である。辞書を用いることで動作を言葉で説明できると考えられるが、その場合も問題点がある。例えば「すたすた」というオノマトペについて、日本語オノマトペ辞典(小野, 2007)では、“足どりも軽く、うしろも見ずに、歩いてゆくさま。「いつになくちょっと興奮したやうな気持で、胸を張り、大跨にスタスタと馬見所へ戻ってきた」〈大道無門・里見淳〉「若侍はさっと身を躲しぎま、器用にすり抜けて急ぎ足にすたすたと歩を早めた」〈茶話・蒲田泣菫〉”とある。この説明では、身体がどのように動いているのかが不明である。また、語釈中の例文は1927年に刊行された里見淳の「大道無門」と、1945年に没した蒲田泣菫の「茶話」から引用されたものであり、現代の児童生徒を対象とした場合には、実感をもって理解できる例文とは言えない。このように、「すたすた」を視覚的に確認できない場合には、辞書による理解も難しい。

そこで本研究では、動作を表すオノマトペについて視覚障害児者が適切な概念やイメージを理解し、使用できるような語釈を作成することを目的とした。動作を表すオノマトペは多数あるため、本研究では、小学4年生の国語の教科書で現れる、笑う動作を表す「にっこり」、「にかっ」、「にやっ」というオノマトペを対象とすることとした。

*元宮城教育大学特別支援教育教員養成課程, **宮城教育大学大学院教育学研究科

II. 方法

1. 参加者

参加者は大学生 30 人であった。倫理的配慮として、参加者には、質問紙の冒頭に研究目的、方法、自由意志による参加であること、個人情報の厳重な取り扱いについて明記し、質問紙に記載し、回答をもって同意して参加したものとした。

2. 調査項目

必要な説明項目を検討するために、「日本語オノマトペ辞典」(小野, 2007)に記載されている語釈を用いて語釈の内容を分類した。その結果、「動作を行う方向や対象の有無」、「動作を行う時間」、「動作を行う時の心情」、「動作を行っている人に対して持つ印象」、「動作を行う時の表情の作り方」、「実際の使用例」、「そのオノマトペの後に思い浮かぶ“笑う”以外の動詞」の計 7 項目を「オノマトペの意味や用法に関する項目」として設定した。

3. 手続き

Google 社が提供しているサービスである Google フォームを使用して質問紙を作成した。参加者に対して、ソーシャル・ネットワーキング・サービス (LINE) を通じて回答を依頼し、Web 上で回答を得た。質問紙では、「基本情報」である性別と年代と「オノマトペの意味や用法に関する項目」7 項目について回答を求めた。

4. 分析方法

質問紙内の選択式の項目は、各選択肢の選択割合の高低に基づき語釈に必要な表現を検討した。自由記述項目は、「実際の使用例」の項目を除き、KJ 法を参考に記述内容を大学生 3 人で分類した。分類の手順として、まず参加者の記述を付箋に書き出した。次に類似性がある付箋どうしでグループを作り、グループを表す名前をつけた。さらにグループどうしを集約して、より大きなカテゴリにまとめ、命名した。「実際の使用例」の回答は、回答に用いられた語や表現が「動作を行う時の心情」の分類と一致する回答を抽出し、例文作成の参考とした。

III. 結果

各オノマトペの心情についての自由記述の分類結果を Fig. 1 から 3 に示した。同様の手続きで、対象の印象等についても整理した。選択肢による回答については回答数による順位付けを行った。また、語釈に取り入れる回答を選定する基準は、選択式の項目については、「参加者の 2/3 が選択した回答であること」という基準から語釈に取り入れた。自由記述項目については、「回答人数が多いものから上位 4 項目以内であること」、「質問項目間で回答に用いられた語や表現の整合性が取れていること」、「他のオノマトペと違いが明確な回答であること」という基準から語釈に取り入れるものを選定した。

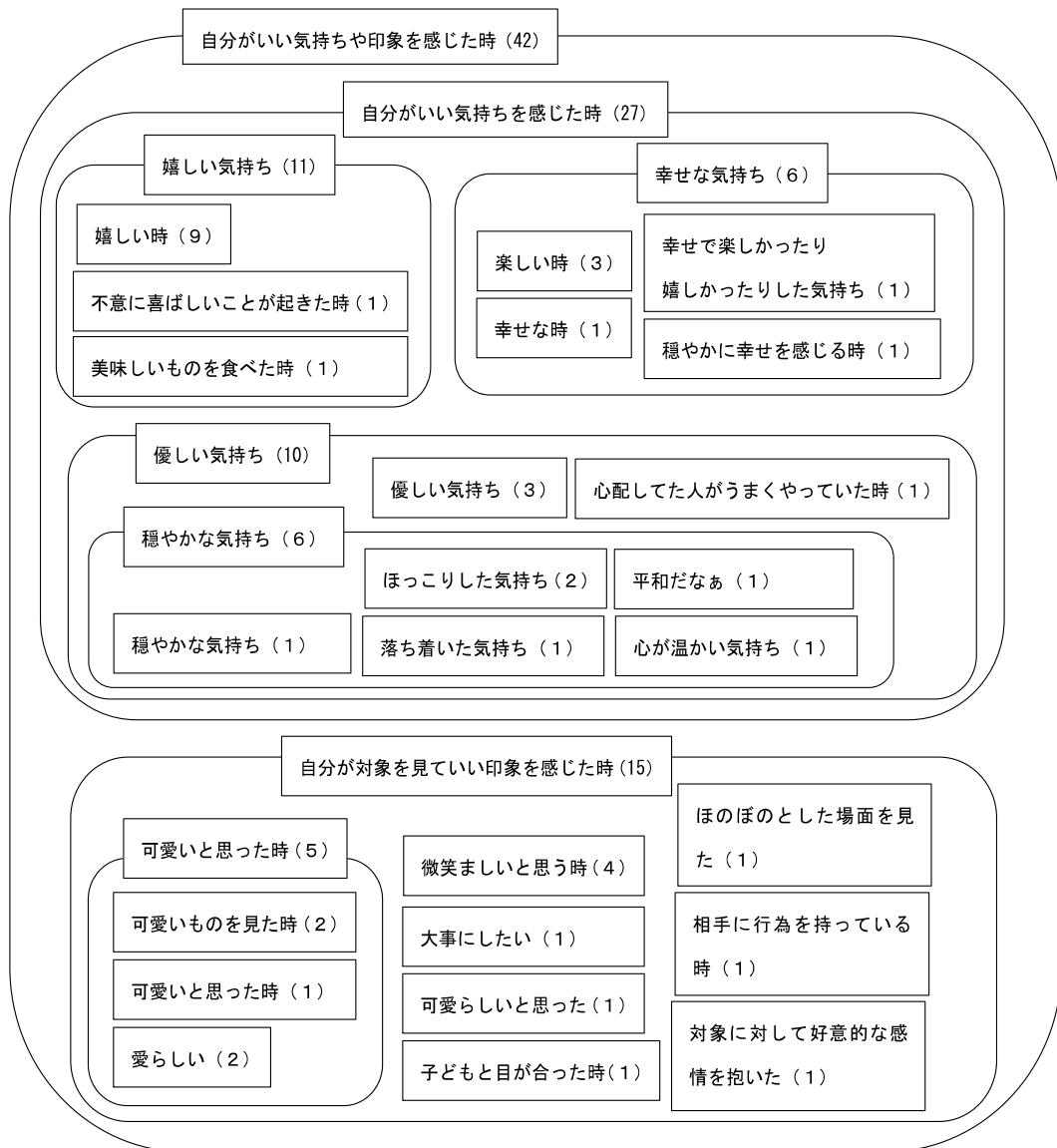


Fig. 1-1 「にっこり」笑う時の心情の分類結果 (1/2)

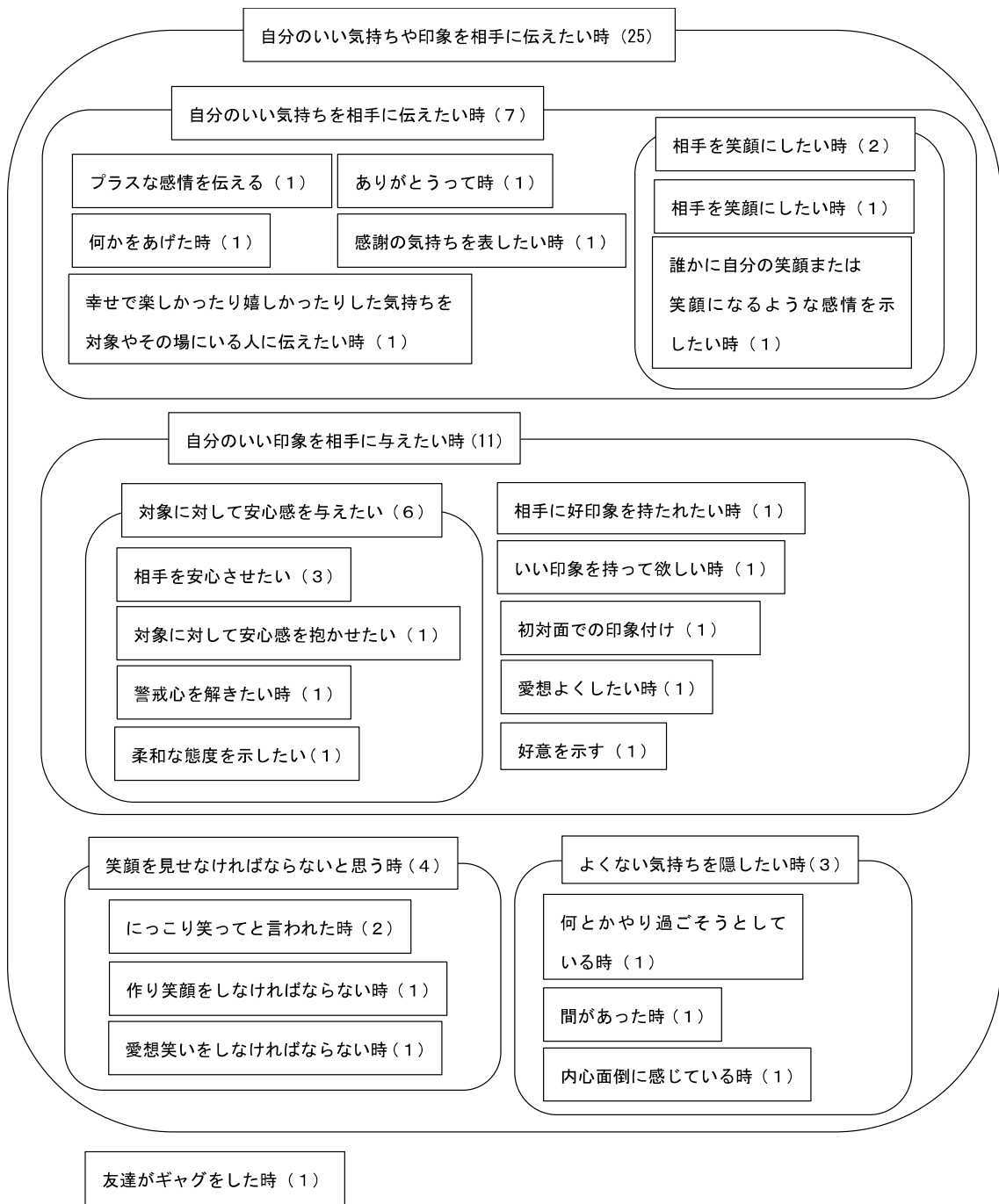


Fig. 1-2 「にっこり」笑う時の心情の分類結果 (2/2)



Fig. 2 「にかっ」と笑う時の心情の分類結果

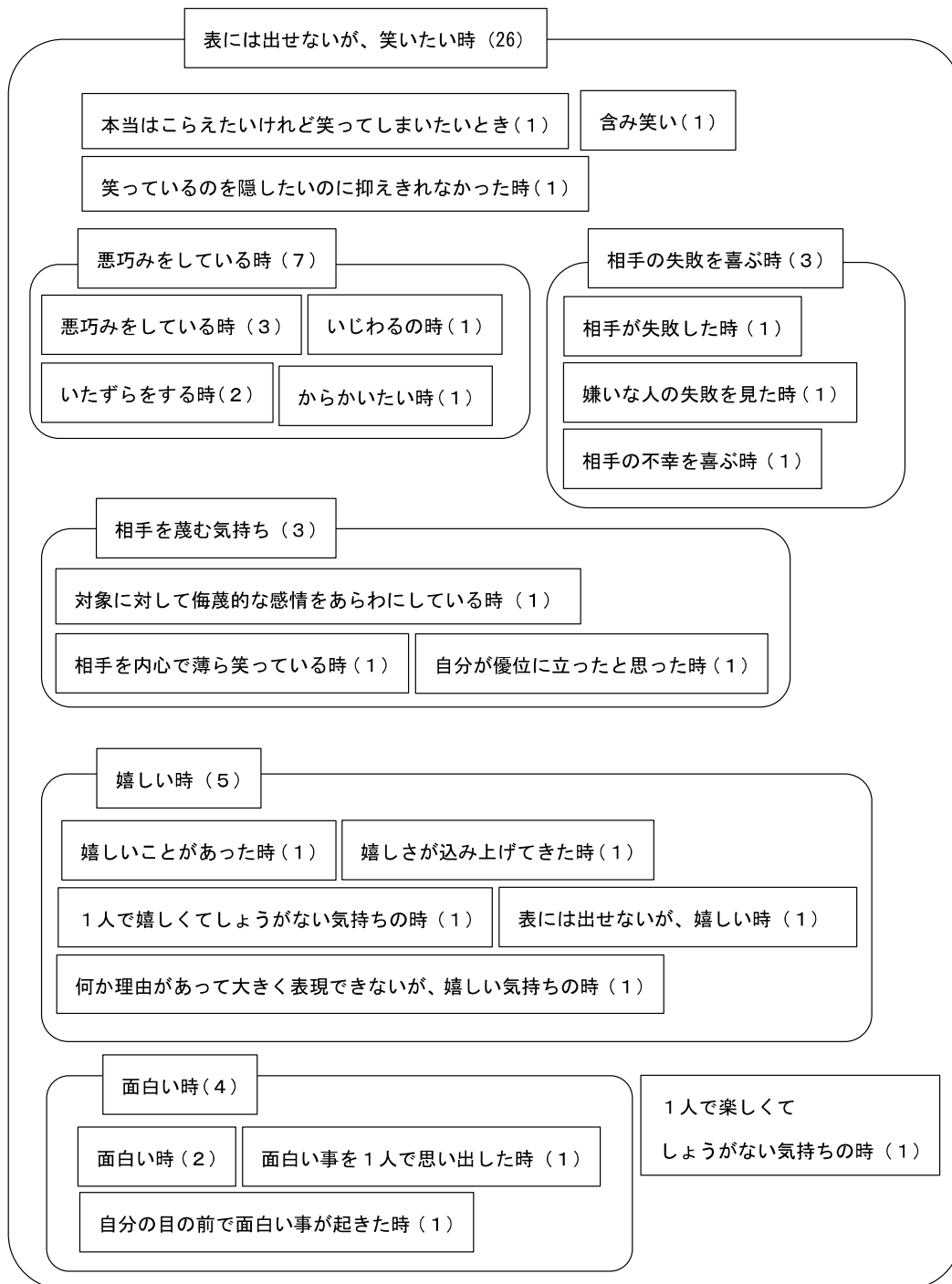


Fig. 3-1 「にやっ」と笑う時の心情の分類結果 (1/2)

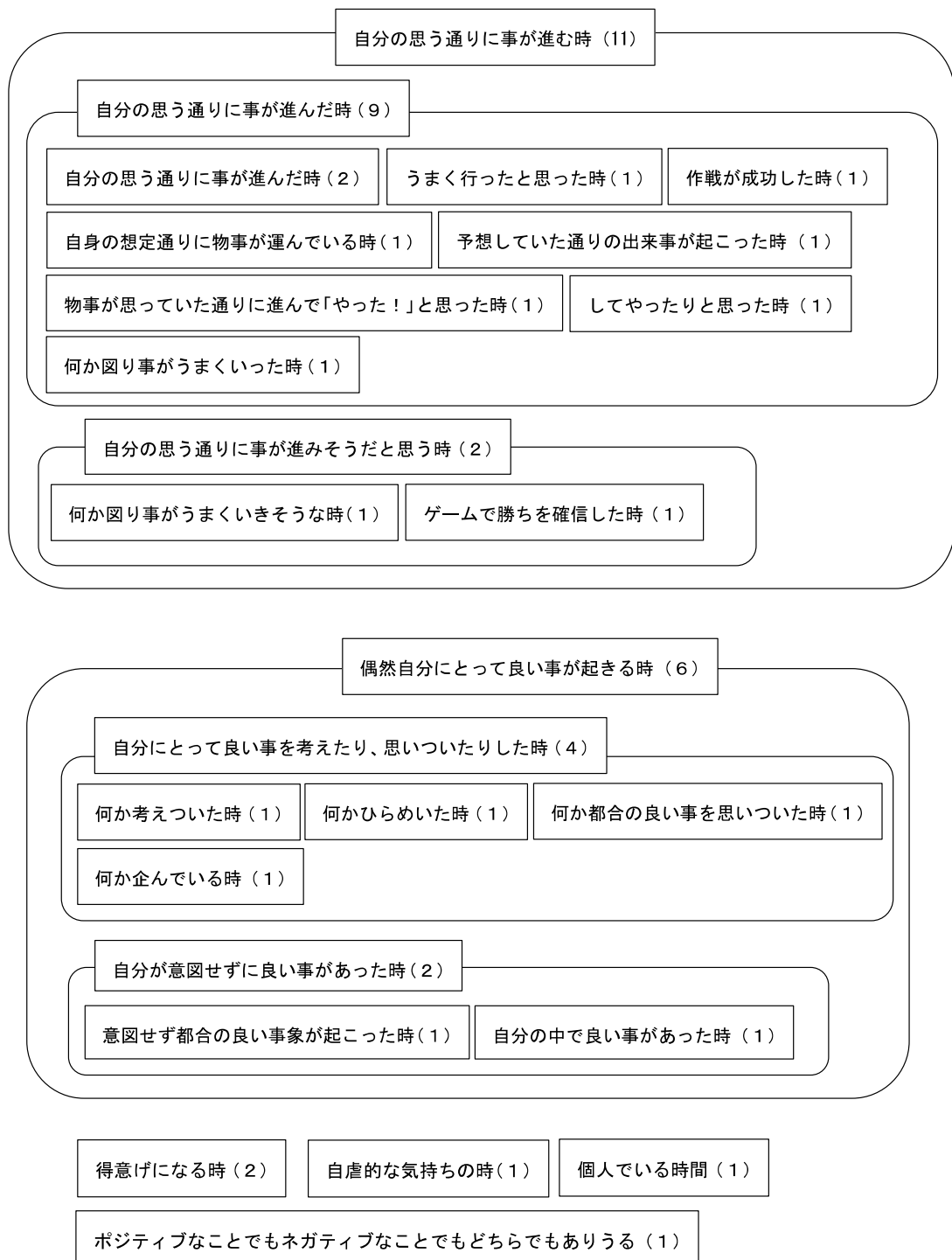


Fig. 3-2 「にやっ」と笑う時の心情の分類結果 (2/2)

IV. 考察

作成した各オノマトペの語積を Table 1 に示した。それぞれ質問紙の分析結果を踏まえたものになっている。例えば「にかっ」の語積は、「にかっ」と笑う時の心情として「嬉しい気持ちを感じた時」や「写真を撮る時にいい印象を与えたい時」と説明した。また、表情が文章で伝わるよう、「目を開き、口も上の歯がよく見えるように大きく開く。口角を目尻に向かって最大限に引き出して笑う」という動作・表情の説明も加えた。例文は、「Bくんはサッカーで点を決めて嬉しくて、周りに向かって“ニカッ”と笑った。」や「男の子がカメラマンに対して“にかっ”と笑う。」とすることで、「動作を行う時の心情」の説明と「実際の使用例」が一貫した語積となるようにした。実際に先天性視覚障害者3名から語積についての印象の評価を受けたところ、概ねオノマトペをイメージしやすいという評価で、特に例文が既存のオノマトペの語積より分かりやすいということであった。

今回の作成では、各オノマトペに対して、「動作を行う方向や対象の有無」、「動作を行う時間」、「動作を行う時の心情」、「動作を行っている人に対して持つ印象」、「動作を行う時の表情の作り方」、「実際の使用例」、「そのオノマトペの後に思い浮かぶ“笑う”以外の動詞」という7項目について人々の認識、解釈を集め、そこから代表的なものを抽出して用いる手法をとった。統一した基準に基づいてオノマトペの印象を評価したことで、オノマトペ間の比較が容易になり、他のオノマトペとの違いを明確に示すことが可能であったと考えられる。

Table 1 作成したオノマトペの語積

オノマトペ	語 積
にっこり	<p>自分が嬉しい気持ちや微笑ましい気持ちを感じた時や、相手に自分の幸せな気持ちを伝えたい時、相手に安心感を与えたい時に笑う様子。可愛い印象や優しい印象を受けたり、いい事があったように見えたりする笑い方を表わす。目を細め、目尻に向かって左右対称に口角を上げて笑う。(例文)「子どもがお母さんに褒められたときに“にっこり”笑う。」</p> <p>「怯える少女を安心させようと、僕は“にっこり”と笑った。」</p> <p>「ある日公園の近くに散歩をしていたら、幼稚園児ぐらいの子が笑顔で遊んでいる様子が見えたので、私は微笑ましいと思って“にっこり”笑った。」</p> <p>▷ “にっこり”の後に思い浮かぶ「笑う」以外の動詞として、「微笑む」「する」が挙げられる。</p>
にかっ	<p>自分が嬉しい気持ちや楽しい気持ちを感じた時や、写真を撮る時にいい印象を与えたい時に一瞬笑う様子。明るい印象や元気な印象、爽やかな印象を受ける笑い方を表わす。目を開き、口も上の歯がよく見えるように大きく開く。口角を目尻に向かって最大限に引き出して笑う。</p> <p>(例文)「Bくんはサッカーで点を決めて嬉しくて、周りに向かって“ニカッ”と笑った。」</p> <p>「男の子がカメラマンに対して“にかっ”と笑う。」</p> <p>▷ “にかっ”との後に思い浮かぶ「笑う」以外の動詞として、「する」が挙げられる。</p>
にやっ	<p>悪巧みをする時や相手を蔑む時、嬉しい気持ちや面白い気持ちを隠したい時に笑いを堪えようとして、堪えきれずに笑う様子。また、自分の思い通りに物事が進む時に一瞬笑う様子。怪しい印象やずるくて悪賢い印象を受けたり、何かを企んでいるように見えたりする笑い方を表す。目を開き、口は閉じて左右どちらかの口角を引き上げて笑う。</p> <p>(例文)「妹は面白いいたずらを思いつき、“にやっ”と笑った。」</p> <p>「ノートが無いと焦るTくんを見て、Hくんはニヤッと笑った。」</p> <p>「私は友達が面白いことを言ったことを思い出して“にやっ”と笑ってしまった。」</p> <p>▷ “にやっ”との後に思い浮かぶ「笑う」以外の動詞として、「ほくそ笑む」「する」が挙げられる。</p>

V. 本研究の限界

本研究では、質問紙調査の参加者が大学生に限られていた。年代によりオノマトペの意味や用法の解釈に違いがあることも考えられる。また、成人ではなく視覚障害児までを対象とした場合に、今回作成した語積の記述が理解しやすいものになっているかは未検証である。それゆえ今回作成した語積が最適ということではないが、既存のものより伝わりやすいものになったと考えられる。

文献

彭飛 (2007) ノンネイティブから見た日本語のオノマトペの特徴 (特集オノマトペと日本語教育), 日本語学, 26 (7), 48-56, 明治書院.

小野正弘 (2007) 日本語オノマトペ辞典, 小学館.

有働真理子 (2002) オノマトペから学ぶもの, 兵庫教育大学研究紀要, 49 (22), 3-21.

矢口幸康 (2012) テクスチャーを表現するオノマトペの感覚関連性評定に表記形態が与える影響, 認知科学, 19 (2), 191-199.